

# 図書館報

—— ビブリオテカー ——

# βιβλιοθήκη

「βιβλιοθήκη」はギリシャ語で図書館のことです。

第 41 号  
2020年2月28日発行  
北陸学院高等学校  
図書委員会  
〒920-8563 金沢市飛梅町1-10  
TEL (076) 221-1944  
印刷所 ハヤシ印刷紙工株式会社

## 図書館報告

〈図書館前廊下の掲示〉  
今年度の県高等学校図書館協議会北金沢地区司書部会研究テーマが「掲示板の活用」になりました。本校図書館では新たな試みとして、毎月「ベストリーディング」と「ベストリーダー」を集計し、貸出の多い本とクラスを掲示しました。また、皆さんの学習にも役に立つように「北陸中日新聞」サンデー版(世界と日本・大図解シリーズ)を毎週掲示しています。

〈テーマによる展示〉  
図書館内では、月毎にテーマを変えて本の展示をしています。  
4月 図書館へようこそ(絵本)  
5月 火山を考える  
6月 高校野球  
7月 「校内読書感想文コンクール」課題図書  
9月 動物園の本  
10月 おりがみ特集  
11月 天体観測  
12月 クリスマス絵本  
1月 方言の本  
2月 チョコレートの本

〈教員による推薦図書紹介〉  
新任の先生方にご協力いただき「教員による推薦図書」を作成しました。各教室に掲示して、図書館内には紹介された本を展示しました。  
5月 藤田 賢太郎 先生  
7月 馬場 聖史 先生

9月 黒部 瑞貴 先生  
10月 島多 滯大奈 先生  
11月 米村 さゆり 先生  
12月 加藤 洋 先生

〈読書週間スタンラリー〉  
秋の読書週間にあわせて、10月21日(月)～11月16日(土)の期間に「読書週間スタンラリー」を実施しました。スタンプを集めた利用者には、書店から提供していただいた景品をさしあげました。今年の景品が豪華(?)になった影響もあり、スタンプを集めた利用者は、昨年の17名からのべ52名と、中学1年生を中心に大幅に増えて大変盛況な4週間となりました。

〈新規購入雑誌〉  
「たぐさんのふしぎ」 福音館書店  
自然や環境、人間の生活・歴史・文化から、数学・哲学まで：あらゆる不思議を届けてくれる科学雑誌です。第一線で活躍する研究者や専門家たちが、世界にあふれる不思議について、自ら感じ、考え、理解し、伝えるよう導いてくれます。  
(司書 高井 章子)

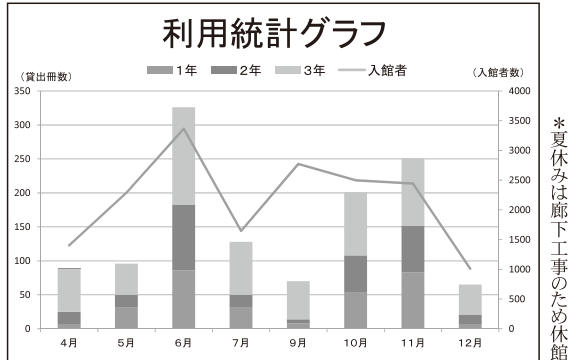
## 図書館利用統計

4～12月

〈個人貸出BEST5〉

1位	37H 高塚くるみ	186冊
2位	32H 袖之 麻央	54冊
3位	14H 北中 元規	41冊
4位	27H 大成 志織	36冊
5位	32H 松田 匠平	29冊

貸出利用冊数	2017年度	2018年度	2019年度
高校1年	234	190	306
高校2年	40	285	297
高校3年	426	174	622
中学1年	31	354	578
中学2年	20	98	125
中学3年	26	17	13
教職員等	484	437	365
合計	1,261	1,555	2,306

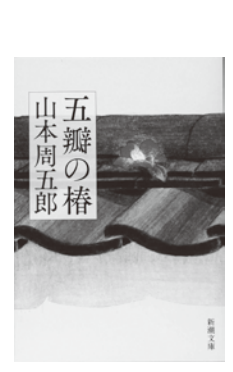


〈貸出作家BEST3〉

1位	東野 圭吾
2位	時雨沢 恵一
3位	村上 春樹

〈貸出作品BEST3〉

1位	はたらく細胞	清水 茜
2位	空想科学読本	柳田 理科雄
3位	はたらく細菌	吉田はるゆき



今年度の図書委員会目標は「plus intelligence」でした。知性プラスには読書が有効です。今回の特集でおもしろい本と出会ってください。  
『五瓣の椿』 山本周五郎  
おしのの最愛の父が死んだ。婿に入つて以来、遊びもせず身を粉にして働いた身体は労咳に蝕まれていた。一方、母は夫を避けて寮に移り住み、遊興に耽り、男を連れ込んで、不行跡を続けていた。母は夫の遺骸を前にしても悲しまないばかりか、死人の側にいるのを嫌がる。おしのに、父への不人情をなじられると、夫を悪く言い、この人は本当の父ではないから悲しむことはないと言いつつ、実の子でない自分への父の愛情を思った時おしのは、女ばかりか人間ぜんぶを辱める罪を犯した母と母と一緒に父を苦しめた男たちに、罪を償わしてやると誓う。  
山本周五郎の少し難しい時代小説ですが、高校生の時ベッドの上でボロボロ泣いてしまったおすすめの作品です(笑) (国語科 藤田 賢太郎)

## 先生おすすめの本

plus intelligence

### 読書で知性をプラス

皆さんは授業以外で、ノートに何か文字を書くことはありますか？日記をつけたり手帳に予定を書いたりしている人もいるかもしれませんが、この本は私に、自分の行いを振り返って文字に起こすことの大切さを教え



『メモの魔力』前田 裕二  
(聖書科 馬場 聖史)  
彦作品もおすすめています。  
これを読めばみんなも「大学生」という生物(いきもの)に憧れる(あるいは失望すること間違いなし！)その他の森見登美彦作品もおすすめています。



『夜は短し歩けよ乙女』 森見登美彦  
京都の町を舞台に練り広げられる、「先輩」と「黒髪の乙女」が織りなす、青春ドラマタ恋愛コメディ！春夏秋冬、季節をまたぐ「先輩」のアプローチは果たして実るのか。

## 先生から一言

本年度より図書委員会を担当しております。委員長の多田さんを中心に新しいアイデアを色々提案してくれて、楽しく一年を過ごせました。学級文庫の取り組みや、先生方や生徒の皆さんのおすすめの本の紹介、古本市、選書会など私にとつて

### 夜の図書館もーり

(金沢市材木町) 11月12日(火)

文化祭で集めた古本を「夜の図書館もーり」へ寄贈に行きました。夜の図書館は市が運営するよう大きな施設でなく、開館日も少なめですが、私はそこにも魅力を感じました。館内は古民家のような雰囲気、とてもおしゃれでした。2階からはすぐ隣の浅野川が見え、ゆつくりと読書するにはぴったりの空間でした。今も閉館中に少しずつDIYで改装をしているそうです。何度か訪れると進化していく図書館を楽しみことができます。  
(26H 徳田 成美)

## 編集後記

今年度は「学級文庫」設置など、例年より活発な取り組みができました。積極的な委員長の働きかけで、行事参加も大幅に増えました。また、ミッション祭「古本カフェ」でクッキング部とコラボ、宗教部「チャリボン」への古本提供など、多くの人達と協力ができ感謝の一年です。  
(T) 編集委員長 26H 多田ひかる  
編集委員 26H 徳田 成美  
27H 尾原 芽衣  
28H 福富 史花

『ほくを探しに』 シェル・シルヴァスティン  
欠けた部分のあるまあるい身体。「ほく」が完全なまるを求めて旅に出るといつ分かりやすくも奥深いお話です。シンプルなお話で描かれた毛

格差社会が注目され始めたとき、この本は出版された。あれから14年経つが、格差はさらに広がりに広がっている。この本の特徴は、所得よりも意識の格差に着目している点である。しかし、単に意識を上げるのも難しいのが現実であることもこの本は指摘している。このような社会で、どうすれば私自身と生徒の皆さんが納得できる人生を歩めるのか、私は暗中模索する毎日である。さあ、皆さんは自分のMissionを活かして、どのような社会にアプローチできるだろうか。  
(理科 島多 滯大奈)

『学びを結果に変えるアウトプット大全』 樺沢 紫苑  
この本は「自分の現状を変えたいけど、何から始めたら良いかわからない人」におすすめています。本の題名通り、アウトプットに特化しているため、80の具体例がわかりやすく載っています。自分が如何にインプットが多くて行動に移せていないかを実感させられます。私も授業で生徒同士が教え合う機会を増やすことを心がけていて「アウトプットしよう」が口癖になっています。発行部数45万部以上上のベストセラー本をぜひともお読みください。  
(理科 加藤 洋)





### 図書委員 おすすめの本

今年度も、各クラス図書委員が本校図書館所蔵の本からイチオシ作品を選んで「図書委員おすすめの本」を前・後期それぞれ6回、合計12回発行しました。なかでも『君の臍臓をたべたい』は人気があり、6人からの推薦がありました。図書館では皆さんに読んでもらえるように、推薦コメントの掲示と一緒に本の展示も行いました。

『翼を持つ少女』 山本弘



この小説は、SF小説が大好きな伏木空が、SFに理解のない埋火武人に誘われて、ビプリオバトル部に加入して、物語がスタートします。SFオタクの空や、その他の個性的な部員が繰り広げるビプリオバトルの場面が、一番の見どころです。また、作中のビプリオバトルでは、実在する本が紹介されていて、新しい本と出会うことができます。読書が

好きな人にも、普段は読書をしなくてもオススメの本です!!  
(37H 高塚くるみ) 齋藤孝



かつて世界最高峰であった日本の読書力が近年では衰退傾向を示している。読書をする意味を理解できない若者が増える中、筆者は「読書とは、自己を形成するものであり、スポーツでもあり、コミュニケーション力の基礎だ。」と述べている。私たちは読書の重要性に気付かず読書文化を復興しなくてはならない。だからこの『読書力』を読めば本の大切さについて詳しく理解できるようになるだろう。  
(38H 河原 未来)

### POP講座

6月18日(火)

つつのみや書店の伴響さんを講師にお招きして、POP講座を開催しました。今回は中学生の参加もあり、賑やかな会となりました。

僕は今回のPOP講座に参加してPOPといえば、ただ絵を描いて飾るだけだと思っていたけど、実は、本を買いに来た人や、借りる人の興



味が引く、大切なものだと思います。確かに自分も本屋に行ったときに、POPがあることでその本に興味を持ってその本を購入したことがあるのでそう思いました。  
実際、僕自身もPOP作りを体験して、人が興味をもてるような色合い、文字、絵を工夫した配置で描かなければならないというのがすごく大変でした。人の目にとまりやすいような明るい色、それも何種類もの色を使ってというところ、さらにそれを一枚一枚手描きでつくっているというのが本当にすごいと思います。  
(17H 森 亮斗)

### ミッション祭

8月31日(土)

今年は「古本カフェでクッキング」と「ロボ」！

古本カフェ  
古本カフ  
古本カフ

### 選書会

11月15日(金)

ミッション祭の収益金を基に、つつのみや書店で選書会を行いました。当日は図書委員有志が、本校図書館の蔵書にしたい本を選びました。

### 購入図書リスト

- この選書会を通して、私は本の大切さを再確認しました。本は一人でゆつたりできる時間をつくり、心にゆとりを持たせてくれます。みなさんにも、ぜひ私たちが選んだ本を読んでほしいと思います。  
(26H 徳田 成美)
- 『ビル・ゲイツの幸せになる質問』 中谷 昌文
  - 『恥をかかないスピーチ力』 齋藤 孝
  - 『世界のかわいい本の街』 アレックス・ジョンソン
  - 『1日1ページ、読むだけで身につく世界の教養365』 デイヴィッド・S・キダー
  - 『ホモ・デウス』上・下 ユヴァル・ノア・ハラリ
  - 『ヒトラーに抵抗した人々』 對馬 達雄
  - 『お金の未来年表』 朝倉 智也
  - 『月岡芳年月百姿』 日野原健司
  - 『世界でもっとも美しい装飾写本』 田中久美子
  - 『祝祭と予感』 恩田 陸
  - 『店長がバカすぎて』 早見 和真
  - 『人間』 又吉 直樹
  - 『熱帯』 森見登美彦
  - 『蒼色の大地』 薬丸 岳
  - 『本日のメニューは』 行成 薫
  - 『倒れるときは前のめり ふたたび』 有川 ひろ
  - 『そして生活はつづく』 星野 源

## 『六千人の命のビザ』

第65回石川県読書感想文コンクール 優秀賞



13H 塚田 楓

私は、決められたことは守る人間だ。例えば、親が決めた門限までには必ず帰宅するし校則を破ることもしない。何故なら、叱られるのは面倒なことであるし、ルールには大人しく従っている方が楽だからだ。ただ、この世の全てのルールが守られるべきなのか。それらは全て「正しい」ものなのだろうか。

私が読んだこの本では、杉原千畝という外交官の決断が描かれていた。第二次世界大戦時、彼は、ナチスドイツに追われたユダヤ人の逃亡を助けるべく、大量のビザを発給した。これは彼の決断であった。彼は当時、リトアニア・カウナスの日本領事館で領事代理として働いていた。原則として、ビザは、様々な条件を満たした者以外に発給してはいけない。更に、日本とドイツは共に戦う仲間であったから、日本はドイツの意向に逆らうことはできなかった。もし、勝手な判断で多くのユダヤ人にビザを発給したら、彼はもちろん、彼の家族にも命の危険が及ぶ可能性があった。それにも関わらず、彼は、領事館に詰め掛けたユダヤ人一人一人に、寝る間も惜しみビザを書き続けた。その

枚数は六千枚以上、救った人は一万人以上であった。帰国後に彼は外務省を解雇された。その功績が世界中から評価されたのは、彼の死後であった。

今、平和な世界に生きる私は、人の命は平等であるということ、何の罪も無いユダヤ人が理不尽に殺されるのはおかしいということを知っている。しかし戦時中は、この間違った政策が正しいものとされ、人々はそう思い込んでいた。もしも私がこの時代に生きていたら、私もその一部であったかもしれない。外交官になることも、決して簡単ではなかったはずだ。彼は、その職を失うことになってもいいと覚悟して、ビザの発給を決めた。この本の著者であり彼の妻でもある幸子には、この決断には危険が伴うことを伝え

た。私は驚いた。私にはできない。戦時中に現代の人権の感覚を持つことも、自らを犠牲にして他人の命を救うことも、とても難しかった。私は、杉原千畝の人道と勇気を、心から尊敬する。

ところで、杉原千畝は、その立場の人間として多くのルールを破った。条件を満たしていないために、本来なら

ば許されないユダヤ人を相手にビザを発給した。外務省からの訓告は、ひたすら違反し続けた。当時、彼の行為は「間違った」ものであった。では、今はどうだろうか。私は、彼の決断は「正しかった」と言える。どんな人間も、人種や民族によって差別を受けてはいけないし、それによって命を奪われるなんてことはあってはならない。彼は、領事としては間違っていたとしても、人として正しいことをした。だが、私が当然だと思うこの正義はほんの八十年前まで存在しなかったものがある。それどころか今もなお通用しない国、地域が世界には数多くある。

時代や環境によってルール・法律・憲法は変わり、それによって正義もまた変化していく。私の両親が子供の頃、教育現場での体罰は認められていたが、今は禁止されている。十八歳以上が選挙で投票できるようになったのは、たった三年前のことだ。お酒を飲んでいい年は、国によって違

う。労働基準法違反は、以前より厳しく取り締まられるようになった。スマホの持ち込みを禁止する学校、朝礼時に没収する学校、授業中でも自由に使わせる学校がある。校則で髪染めを禁止しているくせに、生まれつき髪色が明るい生徒には無理やり髪を黒く染めさせる学校もある。今、私が守っているルールが、これから先も「正しい」という保証はないのだ。

ルールを守ることは大切だ。秩序を守るために、社会を維持するため

### 校内読書感想文コンクール 審査結果

夏休みに本校高校生に読書感想文の宿題を課し、提出された作品をもとに、校内読書感想文コンクールを実施しました。計733点を審査した結果を報告いたします。

☆最優秀賞 該当なし  
☆優秀賞 『ミラヤに学校を作る』

17H 池 あかり

- 『まるまるの毬』 27H 山下 華佳
- 『ザ・ハイトニュー・ギウ』 36H 石垣 萌恵
- 『ミラヤに学校を作る』 38H 濱本 陽菜
- ☆優良賞 『六千人の命のビザ』 15H 宇根本望生
- 『甲子園が割れた日』 19H 池田 茉由
- 『この川のむこうに君がいる』 19H 越原 椿
- 『斜陽』 22H 加志 薫子
- 『この川のむこうに君がいる』
- 『とんび』 27H 山岸 陽菜
- 『ジョン万次郎 海を渡ったサムライ魂』 31H 中溝 仁絵
- 『甲子園が割れた日』 34H 炭田 尚子
- 38H 木下莉璃子
- なお本校代表として、石川県の読書感想文コンクール「I類」課題図書に、石垣さん、濱本さん、「I類」自由図書に、山下さん、塚田さん、松木さんの作品が選出され、塚田さんが優秀賞を受賞しました。(国語科)